

第13回総合計画策定審議会議事録

日時：平成27年2月13日午後1時30分

場所：伊予市生涯研修センター「さざなみ館」第1研修室

出席者：青野光委員、井川一郎委員、今井健三委員、大森幸子委員、奥村やよい委員、笹木篤委員、田頭孝志委員、武智英一委員、武智英明委員、橘慶子委員、玉井彰委員、西村道子委員、橋本千春委員、松本良太会長、向井桂委員、山崎由紀子委員

欠席者：重松安晴委員

事務局（坪内・小笠原・岡井・木曾）

傍聴者：0人

1 開会

2 議事

(1) 第12回会議の振り返り及びまちづくりの方向性

(業者)

皆さんのお手元に配布している2枚の資料に沿って進める。1枚目は前回皆さんから頂いた課題をまとめており、簡単な振り返りをしたいと思う。2枚目は、1枚目の主要課題の関係性をまとめており、それを受けてまちづくりの方向性としてどういうキーワードが考えられるかということまとめています。

まず1枚目の12回審議会議論結果から。前回の意見を「各委員からの意見(抜粋)」としてまとめており、それらを要約した形で「主要課題の項目」としてまとめている。まずは、定住促進の環境充実ということで、移住者を受け入れられる形、マインドコントロールが必要という話があった。交通体制の見直しのところでは、中山間の話が出ている。雇用創出についても、単に新しい企業を呼び込むだけでなく、SOHO (Small Office/Home Office…パソコンなどの情報通信機器を利用して、小さなオフィスや自宅などでビジネスを行うこと)のような手法により、若者の新しい就業の形を考えるべきという話もあった。企業誘致も中心地に進めるのではなく、山間地などにも力を入れるべきという意見も出たと思う。次に中心市街地の復興。消費者の意識改革として、経済を中心部に目を向けた考え方から地域経済の中で動かすという意識に変えていかないといけないという話があった。情報発信の強化として、伊予市の中にもいろいろ良いものがあるのに情報発信ができていない、団体の取り組みも浸

透していない、そういう話があったと思う。それから三世代の育成においては、地場産業の育成も含めた地域コミュニティの中で助け合い、協力を含めて考えるべきという話があったし、地産地消においては、地元の産業とつながりながら学校給食を提供していくという話もあった。行政改革については従来型の課題を考え直していかないといけないという話だったと思う。その次の地域内経済循環、これが議論の中心にあったと思うのだが、グローバルな視点を含めて考える必要があるし、その中で経済を回していく必要がある。いろんな回し方もあろうし、TPPが入ってくることと連動する仕組みも必要だという話もあったと思う。住民自治の強化としては、今までやっている協働というやり方を、より安定的に、地域経済は民間側、住民側の自治力を強化することにより回していく、地域で引っ張っていくという精神が必要だという意見もあったと思う。外貨の獲得、地域経済での循環と連動して考えていかないといけない。特に世界的な視点でのグローバリズムの話もあるし、伊予市をどう見出していくか、地場産業としてどう売り出す必要があるか。中には行政として、また地域として売っていくという話もあったと思う。そういった中で、住民の満足度を高め、外から来たくなるようしっかりやることにより、伊予市により住んでいただける話になるのではないかという話であった。

その下には事務局側の追加項目がある。教育・子育ての環境の向上、また健康づくりや生活支援体制の構築が必要だろうという2点を挙げている。一番下の表には、第1回から11回までの審議会での課題事項として、皆さんから頂いた問題点や提案のうち、第12回の議論に上がらなかったものを掲げている。人口減少の抑制、地域コミュニティの強化、防災対策など会議の中で皆さんの意見を整理している。

これらの皆さんの意見、課題をこれからのまちづくりにどう生かしていくか、本日議論をいただきたいと思い、2枚目に簡単にまとめているので、こちらを説明する。

まず上段では、主要課題の関連性とまちづくりの方向性として、先ほど説明した内容の課題テーマがある。それがどのような形で関わっているか説明する。まず（経済環境）として地域経済を循環させる話がある。商業の振興、企業誘致、1次産業の振興、そういうものの中で雇用を創出するというのが経済環境という面であるだろうということで一まとめにしている。次に（生活環境）、交通や空き家の話、教育や福祉の話、それらを踏まえて実際の定住環境ができ、皆さんを呼び込む環境ができる。もちろんそこにはコミュニティの関係もあるので三世代の育成や防災対策もここにまとめている。（市民意識）

については、地産地消、これは先ほどの（経済環境）にも関係するのだが、伊予市として住みやすく、より活気がわく生活環境としては、地域の皆さまの力が大事だろうと。地域・コミュニティーの力をしっかり付けていく、強化していく。住民自治力を強化することにより、経済環境をより良くし、生活環境をより良くできる話があると思う。もちろん住民の力だけでなく、行政からの支援という形で協働し、その中で新しい仕組みを考えながらやっていく必要がある。これらをうまく回すことによって、より市外に対してPR、情報の発信等をしながらか外貨を獲得する、伊予市としてより豊かな経営をしていくことが必要であり、こういう仕組みを実現することにより、住民の満足度を向上させ、人口抑制ができるのではないかという一つのまとまりとさせていただいている。これ以外にも小さなことや書かれていないところもあるかとは思っているのだが、全体的なまとめではこういうイメージではないかということで、ひとまずまとめている。本日は、これまでの皆さんの課題認識を整理していただいて、下段にあるこれからのまちづくりの方向を議論していただきたいと思う。

今までまとめている中で、第一のキーワード、肝になっているのが「地域（ローカル）」であろうと思う。そのために何をすべきか考えると、やはり「地域内の経済を循環する仕組み」をしっかり構築していく必要、「生活環境自体を充実」していく話がある。また「新しい仕組み」や環境に対応していく共助をやっていく上で「市民の意識改革」もしなければいけない。それからソフトとのかかわり合い、内部へのPRを含めて「地域内外の情報発信・PR」も全体的なキーワードになるのではないか。これらが合わさって「住民の満足度」につながるだろうという、大きく7つのキーワードを出している。このキーワードを踏まえ、今後の方向性について整理してみた。

<課題とキーワードから考えられる方向性>として、自治基本条例の前文にあるとおり、伊予市の特徴的なまちづくりをするために、やはり市民自らが考え、共に助け合い、行動する住民自治のまちづくりが根底にあると考える。そこからローカルという話が出てくると思う。それを進めるために、国や首都圏に頼るのではなく、自立していける地域環境を整えていく必要がある。地域の中では、これからの伊予市を皆さんと一緒に考えるために、市民の意識改革をしながら地域の活性化、循環をさせる、経済を循環させるという新たな仕組みを構築していく必要があると思う。これらをやっていく上で地域内外に向けての戦略的な情報を発信する、市民の口コミで伊予市の魅力を伝える、伝統的な文化活動も継承していくという話もあるのではないかと考えている。それらをやっていく上で、お互いが支え合って過ごしやすい環境を充実

し、いろいろな世代の方々、年寄りから子どもまで暮らしやすいと感じられるまちにしていく、それによって住民満足度を高めていく方向が伊予市としては良いのではないかということを出している。

資料には、既に報告したイヨカフェでの10年後の伊予市のテーマを詠んでいただいたものを掲載している。その中の網掛けで書いている部分、子どもに対しての話であるとか子育てをしている、したいという部分であるとか、伊予市に住みたい、住みやすいというのを市民が作っていくとか、市民の皆さんから出ている言葉もキーワードに符合していると感じている。それを踏まえて、ここでは<方向性>とあるとおり、今までの話を一つにまとめると、こういうことが言えるのではないかということを出している。これがまちづくりの将来像ということではなく、考え方として見ていただければと思う。

最後に、今後方向性に合わせて施策体系を取り、基本施策を整理する際に、キーワードを生かすところはどこなのかということ、案を出している。本日の後半にキーワードもしくは、地域としてまちづくりをどう考えるかという方向性を議論いただき、大きく伊予市としては、これをテーマにいきましょうと並べていただければと思っているので、よろしく願います。

まずキーワードと方向性を出しているのだが、ほかにこういうものもあるとか、こういう切り口があるのではないかというものも含めて、率直な感想を出していただきたい。

(委員)

書いている内容で、特に若い世代の定住促進があったので、非常にありがたいと感じている。人口を増やしていくなれば、市長をはじめ職員や議員が頑張らなければいけないと思っていたのだが、意外と市の職員はやらないという意見が多い。それをこのように書いていけば、少しは市の職員に若い世代の定住促進が大事なのだなと感じてもらえる。今後ともこういう目線で書いていただければ幸いである。

(業者)

ありがとうございます。今のような感想でも構わない。ご意見があれば一言いただきたい。

(委員)

市民自らが考えて行動するという最初のキーワード、これが一番大事だと思うのだが、実際に実行できているのは佐礼谷だと思う。佐礼谷はあまり段差もないし、みんなが同じ気持ちで、中山もアテにならない、郡中もアテにならない、それなら私らで自分たちのところを楽しい郷土にしようという気持ちが自

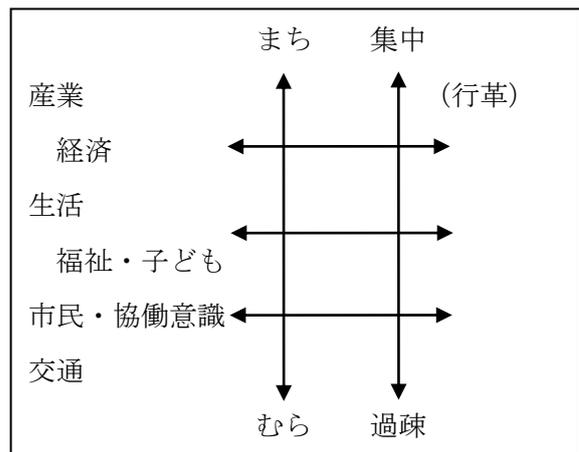
主活動につながったと思う。ずっと以前の市長のとき、私は新市のレポートとして工業団地を4か所か5か所提案していた。湊町の埋立地ができたときに工業団地にしろと言っていた。普通自営業者が借金して土地を買ったら、借金を返さないといけないからお金を稼ぐ産業をするのだが、公園にするという話であった。公園にするとなお金がかかるだけである。今になって公園ではなく工場だと言っても来やしない。どこの市町も必死で誘致している。私はこれからの伊予市は、佐礼谷の民意をもっと大きくすること。10年後の伊予市の川柳、一番最後は私の川柳である。伊予市とは海山まちのいやし里、本当はユートピアとしたかった。そういうように、自分たちの住むまちは自分たちで楽しいまちにしないといけないという機運でないといけないと思う。

(業者)

ありがとうございます。方向性も出していただいた。自立する形で、地域でしっかり住みやすいユートピアを作っていくというご意見であった。

(委員)

ホワイトボードはあるだろうか。川柳から感じられることも含めて、伊予市の特徴はまちからむら（郡中—農山漁村）までである。あるいは人口の大小、松山市（中核都市）から遠い・近い、人口密度も過疎・集中、土地柄としては山・海辺・この辺りの平地という、縦軸のバリエーションがあって、その中で経済の問題、産業の問題、生活の問題、人口の問題、道路の問題、後は市民意識、市民協働という問題、行革も結び付いてくるのだが、今はどちらかという、横軸で割って項目を挙げていて、一見ちょっと平面的に見えるのだが、実は縦軸に従うと方法論、解決の方法が全然違うと思う。交通の問題では、同じ道でもむらや山間部の道と郡中市内の道の造り方は全然違うと思う。ほかの分野でもいろいろあると思う。まちもあれば自然もあるしむらもあるという意見が多かった気がする。方法論の違いの重奏感が伊予市の最大の特徴だと感じている。今までの中央集権的な行政のやり方だと、例えば区画整理でも大都市から中核都市から小都市から村まで同じ方法論でやっている。であるから国の政策とは違う都市行政としては、この重奏感を見せるのが総合計画で一番の振り方というか、伊予市らしさが出せるかなと思う。その立体を平面で見せなければならぬので、その表現がものすごく難しいの



交通の問題では、同じ道でもむらや山間部の道と郡中市内の道の造り方は全然違うと思う。ほかの分野でもいろいろあると思う。まちもあれば自然もあるしむらもあるという意見が多かった気がする。方法論の違いの重奏感が伊予市の最大の特徴だと感じている。今までの中央集権的な行政のやり方だと、例えば区画整理でも大都市から中核都市から小都市から村まで同じ方法論でやっている。であるから国の政策とは違う都市行政としては、この重奏感を見せるのが総合計画で一番の振り方というか、伊予市らしさが出せるかなと思う。その立体を平面で見せなければならぬので、その表現がものすごく難しいの

だが、その辺を工夫してはどうかと思った。

もう一つ、一枚目の項目にたくさん出ているのだが、ここに漁業と林業の問題が欠けている。漁業も農業に劣らず大変な問題を抱えているので加えるべきである。

(業者)

今言われたまちからむらまであるという伊予市の特徴は、確かに皆さんのご議論の中にあっただと思う。今まとめている内容にプラスすれば、より伊予の特徴が見えるし、まちづくりの施策の整理ができると思う。ほかにご意見はないだろうか。

(委員)

先ほどから皆さんの言うことがばらばらになっている。これは我々が言った意見をまとめているだけであり、それに意見を言ってくれと。意見を集約したのに意見を言ってくれという意味が分からない。今はまた元に戻っているだけであり、具体的にどう進めるかという議論が大事である。意見を言うてくれというのは、意味が分からない。

(業者)

こちらからの投げかけが分かりにくくて申し訳ない。本日は皆さんから出てくるいろいろな意見を、最終的にまちづくりの方向性としてまとめる作業を進めていきたいと思っている。皆さんにはまず、この方向で良いかどうかの確認をいただいた上で、別の資料で用意しているこれからのまちづくりに落とし込みを行う予定である。

(委員)

うろ覚えなので確かではないのだが、伊予市在住のシンクタンクにいらっしゃる方から、道路やトンネル、橋などの公共工事をするることによる経済効果よりも、外から観光客を呼び込みお金を落としてもらう方が経済効果は高いと聞いたことがある。どのくらいの差があるかまではおっしゃらなかったのだが、伊予市においてもそういう観光事業に力を入れるような資源がもしあるのであれば、そこに少し力を入れてはどうかと提案する。

(業者)

工事が観光かというのは、資源の話もあるし、皆さんの意見に出てきたように滞在型、グリーンツーリズムの話もある。それ以外にもお金を落とすような観光事業がまだあると思う。具体的な観光としてどのようなものがあるのかは、この後の基本計画を議論する際に話を深めていただきたいと思う。あとはどうだろうか。方向性はこのような意見で大丈夫だろうか。

(委員)

私も意見はいくつもあるのだが、いつ・何を言っているのか分からない。例えば定住化であれば、農林水産省の補助を使って住宅を建てて入居してもらうとか、農業分野でいう人間の交換をしてみるとか。幼稚園と老人ホームは一緒にしてお年寄りに助けてもらうとか、いろいろ意見は言いたいのだが、今の話でいくといつ言っているのか分からない。今方向性は出てきたわけだろう。これを否定したらまた一からやらないといけないのだろう。だから今できた意見をステップアップするように前向きに進めないといけない。皆さんの意見が集約されたのだから、方向性が出ているのだろう。反省、反省、これで良いですかと言うとまた否定になってしまう。前に向けて進めてほしい。

(委員)

よろしいか。私から一点だけ。今まで12回やった中でこの2枚に落としてもらっている中に内容が網羅されているのであれば、まとめ方はこういうやり方しかないのではないか。総合計画の一番大事な基本計画、アウトラインがきちんと出ているのであれば、こういうやり方でやらざるを得ない。縦横の手段・方法はいろいろあるけれど、それはこれからの話である。キーワードとして言われたものはここに入っている気がする。ただ先ほど言われたように林業や漁業は入っていない。そこはどう協議するかというのはあるのだが、落とし方としては、このやり方でないと、基本計画は前に進まないと思う。

(事務局)

本日13回目である。これまで第1次総合計画の検証、反省等を踏まえ、ここ3、4回は新しいまちづくり、将来伊予市はどうなるべきなのかいろいろ意見をいただき、本日この形でまとめ皆さんに確認していただいている。第1次総合計画は「ひと・まち・自然が会う郷」という将来像、それは中山・双海・旧伊予市が合併をして新しい人々が出会ってまちをつくるんだという将来像ができて、現在進めている。今回は合併して10年経つので、新たな考えの下ご意見をいただいている。それぞれの個性を生かしながら、皆さん方で手と手を取り合っということ、いろいろなキーワードが出てきたと思う。先ほど農業の振興や観光についても意見があった。これから深めていかないといけない議論ではあるものの、まず今年度いっぱい、将来構想、伊予市が将来どういう方向へ進んでいくか議論を深めていただきたい。

将来構想、将来ビジョンにおける個別の施策や、福祉なり農業なり観光なりの具体的な事業については、4月以降意見をいただきながら政策ごとで議論を深めたい。それが基本計画となり、合わせて総合計画になる。

分かりにくいところはあるかもしれないが、今年度いっぱいまで今後伊予市はこういう形で進めばいいかなという方向性をまず確認いただいて、最後将来構想のまとめとして、地域・ローカルとか皆さんのキーワードを含めた将来像の言葉を決めていただくということでご理解いただきたい。

実はもう一枚資料がある。これは今後総合計画をつくっていく中で、皆さまからいただいた関連性のある施策がどういうところに収まっていくかというイメージである。こちらについても併せてご確認いただきたいと思う。

(委員)

よろしいか。我々は伊予市にずっと住んでいるから分からないのだが、業者のお三方はほかの県や市でもこういう仕事をなさっているだろうが、伊予市らしさ、伊予市ならではのものを何か感じただろうか。

(業者)

よくそういうことを聞かれる。まず先ほどのまちからむらまでいろんなものがあるというのは、実はどこの地域でも同じようなところは結構ある。個人的に一番感じているのは、本日こちらに集まり、ずっと13回の議論を進められている方々の熱意は、ほかでは見られないくらい高いということである。ある意味伊予市らしさではないかなと思っている。行政側もそれを真にやっていく体制もある。これから今までの意見をどう生かしていくか、今はまだ入口かもしれないのだが、その辺りが伊予市らしさと感じている。

(委員)

期限が迫っているという問題がある。今回のテーマは枠組みとしてこれを承認するかどうかということだろうと思う。枠組みは先ほど言われたような、まちからむらという多様性を考えながらというまとめ方は必要だと思うのだが、個別的政策については、この枠組みの中に今後書き込んでいけばいいと思う。ただこの表にあるキーワード、気になるのは「市民の意識改革」である。当然必要であるのだが、行政の意識改革というのが書き込まれていない。市民の意識改革と行政の意識改革があって、このまちを発展させる、あるいは人口減少を食い止めていくということになると思う。これまでの10年は、新しいまちを手探りでまとめ上げていく住民意識の一体感の醸成というのがテーマであった。今はまさに人口減少が大きな課題として目の前に迫っている。行政の意識改革もこれまでなら後追いでも良かった。これからは市民の意識も変えていくけれど、行政も他市に先んじて意識を変えていくということを大きなテーマとして盛り込む必要があると思う。あくまで個別パトロール的な議論であって、大きな柱は行政の意識改革というものの、このようなスタンスで住民自身に

向き合ってきたということを今後書き込んでいくべきだろうと思う。

(業者)

ありがとうございます。キーワードとして市民の意識改革があるけれど、これを市民、行政両方の意識改革という言い方もあるだろうし、もう一つ、行政改革とあり、この中には単に財政を良くするというだけでなく、職員の意識改革を全部やらないと行革も進まないということも含めた二面性があるという気がする。どちらで取るかは、皆さんのご議論により若干変わってくると思うのだが、どちらにしてももちろん必要なことになろうと思う。

ここで簡単に3枚目の資料の見方を説明させてほしい。よろしいか。

総合計画を見られた方もあるかもしれないが、通常行政の計画としては、先ほど示した方向性、例えば都市の将来像やまちづくりの方向性というものを、理念として一番上に据える。その理念に基づいたまちを実現していくために具体的な施策を打っていく。そこでは少し分野別に小分けにしながら、ツリー構造で整理していく流れとなる。今回もそれを踏襲するのがいいのかどうかという議論はあるものの、各分野でやる内容は、やはりこの中に組み込んでいかないといけない。もちろん分かりやすく表現するというのも一点あるかもしれないが、全体的な構造としては、このツリー構造のそれぞれの柱やテーマを整理して、そこに具体的な政策をぶら下げていくという流れになる。例えば先ほど説明した5つのキーワード、地域内経済の循環であれば、産業・活力に係る事項の 카테고리に関わるだろうし、生活環境の充実というキーワードであれば、都市基盤に係る事項から住環境・生活安全に係る事項、あるいは医療・福祉、教育・文化に係ってくるというテーマで表現している。あと新たな仕組みづくりという点であれば、協働の方向性や行財政運営に係っている。地域内外の情報発信・PRについては、情報発信、交流といったものを一つ大きく掲げて出している。このようにテーマを各分野に振り分けたのが、この構想となっている。そして、前段で出てきた細かなテーマはその下、各テーマの落としこみというところに並べている。ここでも例えば定住促進の環境充実であれば、生活環境だけでなく、都市基盤や医療、子育てしやすいということでの教育にまでまたがった形のテーマとしている。この中には、もちろん水産業の話もあるし、行革の話もある。そういうテーマや意見があれば、この中に少しずつ落とし込んで整理させていただく。

あと、先ほどの伊予市の特性、まちからむらまである地域性をどう捉えるかということについては、ツリー構造で表現するのがなかなか難しい。その施策を地域によって住民にやっていただく手法をどう表現するかという話になるか

と思うのだが、一例として点線囲いにあるとおり、子育て支援対策をしていくという施策を打ち出すときに、具体的な取り組み事項、それを表現していくやり方として、地域特性、市街地だとか郊外、集落といったものと連動した形で具体的な施策、取り組み事項をシーンにあった形で書き込んでいくというやり方はあるのかなということで、表現している。これが良いかどうかは、実際に表現をまとめていく際にご議論いただく形になるけれども、一点あるのは、地域性を加味した形で施策展開をやっていく必要があるのではないかということとで例を表している。今後も皆さんからいろんな提案が出てくると思うが、そういうものをまとめていく上で考えていただければと思う。

あともう一点、先ほどの定住促進の環境充実の話は各分野にまたがっている。こういうものは、例えば伊予市として重点的に取り組んでいく、まちづくりの中でも力を入れていくということがあるなら、重点プロジェクトという位置付けをして、具体的な役割分担、どういう方が関わり、どんな提案、枠組みを持ってどういう取り組みをするのか整理していくのも一つの手段ではないか。今後どういう表現になるかは調整になってくると思うのだが、構成のイメージとしては、枠囲みのようなイメージで同意をいただければと思っている。

本日は先ほどの皆さんの方向性をおさらいという形で見ていただいた上で、こういう構造になっていくということを理解いただき、定義やテーマが分野的にこう係ってくるのも大事ではないかというのがあれば、また提案いただければと思う。それらの意見を含め、次回全体的な総合計画としての基本構想部分をまとめていきたいと思っている。

(委員)

もう少しゆっくりしゃべったほうが良いと思う。

どうしても最初の頃の海士町とか内子町のイメージが頭の片隅に残っているので、もう少し魅力持たせられないかとか、もうちょっと言葉がいきいきとした項目にならないかなと思う。適切な表現が見当たらないのだが、普通になっているのは、引っ掛かる。

最後に配られたこの資料について、やはり役所の縦割りを意識した、現実に即した考え方だと思うのだが、実際には各支所横断、各課横断で一つ一つのテーマに取り組む方向に行政改革をしていかないといけない。水道だったら水道課がやれば良いという問題ではないと思う。そういうことを促す分け方もあるのではないか。今書いてある四角の枠の下には〇〇課というのが並んできそうに見えてくる。むしろそうでなくて、あれっ？と考え込むくらいの分け方があってもいいのではないか。小さな行政改革という言葉でその空白を埋めるよう

な文章構成もあっていいのではないかという気がした。

(業者)

確かに表記は、それぞれの分野に分けたら…ということをやっている。言葉はこれから皆さんのご意見をいただいて、より腑に落ちる言葉にしていく必要があると思っている。縦割りのところをどうするかが一番大きい話だと思う。ただこれはあくまで行政として同一種でまとめているので、例えば刷り直して別の表現にさせていただいてもいいと思う。その辺の表現は皆さんのご議論をうまくすくった形で頭をひねらないといけないと思う。これがそのまま全部出るという形ではなく、まずこの構想の中に、皆さんの意見が入って構成されているということを見ていただければと思う。どういう表現がいいのか、提案があれば出していただきたい。

(委員)

財産の話で重複するのだが、問題提起を逆に分けるのではなくて、例えば都市整備の話だと、都市整備と農業委員会、ほかの課もまたがるとか、逆に課題を置いて、それをどう対応していくのかを具体的にしていく。そうすることによって、縦割り行政に横のつながりができてくる。それが最初のステップだと思う。

ついでで申し訳ないのだが、前に宿題を出していたのを前回聞くのを忘れていた。公民館主事の方が、地域の小学校区をもう一度回るとい話はどうなったのか。話してもらったのか。要するに主事がボランティア組織の最初を作っていく、昔はそういうことをやっていた。あの宿題の答えをまだもらっていない。

(事務局)

教育委員会は、公民館主事の話もあるのだが、この4月にまた大きく機構改革する予定になっている。学校教育の分野で、教育委員会のあり方にある程度首長権限を持たすという改変がある。併せて教育委員会の機構改革も行うようにしている。ご意見いただいた社会教育主事（公民館主事）の問題について、私も地域の活動に参加しているのだが、公民館主事自体確かに減っており、以前の活動ができていないのは確かである。社会教育課とその分野の話をしているのだが、現状ではなかなか難しい。人事部門と併せて社会教育課を充実させるかどうか検討を進めないといけないのだが、この4月からすぐに変えるというのは難しいと思う。もう少し時間を頂戴して、教育委員会のあり方、社会教育とはどうあるべきかを含めて検討させていただきたい。こちらの計画としては、社会教育課と併せて別の部門をできれば公民館に配置して、公民館機能を

充実させたいという希望もあるのだが、なかなか人事のオーケーが出ない。そうすれば、公民館主事がもっともっと地域に出ていける土壌もできる。現在の公民館は、それぞれの団体を管理するので手いっぱいになっている。新しい職員を増やすことも含めちょっと時間をいただきたい。地域活動充実のために公民館活動が大事だということは重々分かっている。検討は引き続き進めたいと思う。はっきりした回答になってないので大変申しわけないのだが、まだ結論が出てないのが現状である。

(委員)

どう言えばいいのか。市長が掲げた、動けば変わる。私はこれを信じて真剣にやってきた。今言われた状態がいつまでも続くと変わってないことになる。人が足りないというが、私に言わせてもらったら職員は増えている。だから人が足りないというのは止めてほしい。民間はある中で何とかしていく。

それから私が心配しているのは、職員が夜に動くことになると、時間外が増える。たまにタウンミーティングなどで出るのならいいのだが、それが増える。いつまでもそうしていると、市民が変わってくれというのは伝わらない。やはり行政が変わって訴えていかないと、市民に参加してくれというのは伝わらない。まず人が足りないというのは止めてくれ、それから時間外も止めてくれ。そうしないと以前と同じだ。これ私が宿題出したのは昨年のお話である。という事は何か月前からだろうか。農業もそうだ。新しいもの良いものがあれば動かないといけない。大規模農業も愛大農学部と一緒にやるといって東温市に取られた。私も意見は相当前に出していた。結局何もできなかったかもしれない、ただやろうとする姿勢が出れば、空気が入る。時間がない、前向きに検討する、公共の言う前向きに検討しますはしませんと一緒にである。やろうとしないといけない。民間はやらないと潰れる。行政も一緒にである。これからは潰れる。前向きに何でも動くべきだ。先ほどの意見はそのとおりだ。行政が変わらないままで市民にやれやれと言っても無理である。市民もやらなきゃいけないのは分かっている。いずれ破綻が来るから、自らが頑張らないといけない。だからこの策定委員会も熱意が違うんだと思う。みんなが変わってきているのだから、市役所も変わらないと。旧体制で今度再編する、そんなことはない。その前に動くだけのことである。今の人がどれだけ働くかである。1人の公民館主事が動かなければ、それは無理だ。100人入れても200人入れても給料が増えるだけである。ただ増やすとか増やさないという話ではない。

(委員)

今のお話を聞いていると、つくづく思うのが危機感の共有である。少子・高齢

化の中、合併して10年経つけれど、果たして合併してよかったとみんな思っているのかどうか。そういうこともこの中に入れたらいいのではないかと思う。やはり変わるというのでなく、何に一番力を入れていくか。例えば総合計画の委員は何に力を入れていくか、というのは、きちっと盛り込んでいけばいいのではないかと思う。

(委員)

最終的には今言われたとおりで、これからは今までの意見を整理したものの中から優先順位を付け、総合計画の中に入れるべきかどうかで、また落としたりする。何もかもできないものを入れるわけにはいかない。やはり重点度の高いものから整理して入れていく。さっき言われたのはまさにそのとおりで、現状走っていることだから、事務局はいろんな部署につないでもらい、改善できるところは調整してもらおう。我々総合計画を作っていくわけだが、言われる提案も分かるけれど難しい。縦横問わずの課がまたぐ、部署がまたぐ、整理して連携が取れているのなら、何も言わなくてもある程度前に向いて進んでいるはずであって、これは国も県も一緒である。だからそこをもう一度ゼロ発進でやらないといけない。

総合計画を組むときに、内子町や東温市、久万高原町、西予市とある程度目通ししているけれど、事務局もそれなりに苦労している。部署をまたぐというのはなかなか。割と総合計画は同じような羅列になってしまい特徴が出せないのだが、それはそれとして伊予市は伊予市版でやっていかないといけない。まずはここに落として、事務局で考え方を整理して、その都度委員に支えてもらいながら前に進めるしかない。

一番大事なものは、先ほど言われたように、突出するもの、定住の促進を計画に載せたら100%実践するんですよという手段・方法を作って計画の中に入れていく。そうすればある程度たたき台はできると思う。

(事務局)

危機感が足りないというのは、非常にごもつともな意見である。今までどおりその課が仕事をしているだけではいけないというところはある。そのために我々のようにどこの部にも属さない部署もできた。もっと横へ連携が取れる、部署をまたいだプロジェクトチームを導入していかないと、人口減少が進む伊予市を何とかしようというのは難しいと思う。3日前に行われた県の戦略会議でも、伊予市の出生率が1.36と県下2番目ぐらい低く、職員自体が非常にびっくりしたところがあった。これは何とかしないと子供もいなくなってしまう。そこは持ち帰って、組織は組織として、また政策は政策としてどのように進め

ればいいのか調査、議論して、早い対応をしていきたいと思う。

あと1点だけ、合併検証の話があったと思う。実はまさに今県で合併の検証部会が開かれており、合併報告書がまとめられている。これも次回参考ということで、委員の皆さまに提示したいと思う。それぞれの自治体がどのような課題、どのような効果があったかまとまった資料になるので、是非ご覧いただき、今後の総合計画の策定に生かしていただきたいと考えている。

(委員)

私は最初から説明されている方の意図が分からない。何を聞いているのか理解ができない。そこら辺を検討してください、ご意見をお願いしますと言われても、ここで何を決めるべきなのか、今日の会ですべきことが伝わってない。皆さんが言われることは全部分かるのだが、肝心のことが分からなくて、何を言っているのか分からない。資料もまとめられていて、最初の2枚が最後の1枚になっているのは分かる。書いていることを読めば理解はできるのだが、何を求めているのか、それが分からない。

(業者)

皆さんにお願いしたいのは、方向性として書いているところの考え方である。今から実際の基本構想という形で、文章をどんどん起こしていかないといけないのだが、今はその基本的な考え方を一文で書いている。その考え方で良いのかどうか今日一番欲しい内容である。

それを踏まえて皆さんから出ている課題や各テーマがこういう形で今後の総合計画をまとめていくときの形になるということを知っていただきたい。そういうことで3枚目についてもお伺いしているところである。一番は2枚目の後半に書いてある方向性を、皆さんのまとめという形で確認していただきたいというのが目的である。

(委員)

すみません。笑うと悪いのだが、集めた資料、皆さんが言うのは全部正しい。問題はどれが重点なのか、どうしたいのかと言われるからみんな弱る。どうなんですかと言われてたら、これは良いですよ。全部我々が言った答えであって、それをまとめてきているだけである。どれが重要なのかと言うと、私ならこれを優先してくれとか、これをしてくれとかになると思う。今漠然と言うこれで良いんでしょうか、正しいんでしょうか…正しいこと言っているんだから正しい。今後思ったこと、みんなが伝えたものが文章になってこういう資料になっている。だから我々がそれを持って帰らせられると皆さん困る。いいですかと言われると、我々が言ったことは全部無駄なことになるだろう。だから

言うことがおかしかった。もう具体的に行かないと日にち時間はもったいない。これで何が大事なんですか、どうしますかと言うなら分かるのだが。

(委員)

おっしゃるとおりである。それで先ほど伊予市の好きなのところは？と聞かれたと思う。その答えがこの会が熱いというだけで、本当にがっかりした。伊予市のことを考えてくださる方がそれだけしか感じ取っていないのかとがっかりした。それならそれで、努力して魅力をもっと感じ取ってほしい。それが分からないと審議会の委員が訴えていることも多分分からないと思う。今一番力を入れたいところに将来像を持ってきたいのだと思うのだけど、この言葉ではどこでも通用する。作ってきていただいたのはもっともなことだし、素晴らしいことを書いているのだが、じゃあ伊予市はどうなの？これならどこに持って行っても同じである。伊予市の問題はほかのところも抱えている問題なのか、同じ問題を抱えているけどじゃあどうするかというのは、その土地土地で考えなければならないと思う。多分それをここに持ってくるのだろう。

(業者)

将来像のところは、意図的に皆さん腑に落ちる言葉で入れるということであるので、おっしゃるとおり間違いない。

(委員)

私も何が何やら分からなくなってきた。私の受け取り方は、今までやってきた話をまとめて、これでいいですかという話だと思って、私はこれでいいですよという意見を出したつもりである。それで今度はそれを項目別に掲げていこうということで進めたいのだがどうだろうかと思っているのではないかと思う。

第1次総合計画のときは、事務局で分けて文章も全部作ってしまって、あとは言葉の文面を変えるくらい、1年間で済ませたと思う。ただ不満に思ったのは、合併して人員の削減を図るところがなく、人員の適正化を図るといふ文面だったので、これは削減を図るとはっきりしたらどうかと言ってそうならなかったはずなのに、市議会に諮ると適正化を図るに戻ってしまっていた。何の審議会だろうと思ってしまった。誰か言っていたように、事業をしている人はそれに命をかけている。公務員は失敗しても部署が変わったり昇進が遅れたりするくらい。だからそういう問題が発生するのだと思う。私は動けば変わる伊予市というのに感激した。目安箱というものもできて試しに出してみたらきちっと返事が戻ってきた。良い意見は県でも通った。

この問題については、意見を言うように進めていけばいいのではないかと思

ってはあるのだが、ちょっと分かりかねている。

(委員)

提案である。例えば今5つとか7つとかといろいろな言葉が出てくるけど、多分大項目は5つかなと思う。経済循環の構築、生活環境、市民の意識改革、新たな仕組み、それから情報発信。経済循環という言葉が方向性を持っているけど、そのほかの言葉は大体項目が並んでいるだけなので、この項目の方向性をもう少し明確にするような意見を一人一人に出してもらおうとか、どういう情報発信をするのか、新たな仕組みづくりはどうする、そういう意見の集め方をするのが一つ。

もう一つは、行政の希望とか仕組み、それから業務遂行が中心となると面白くないので、そういうことを全く無視して、今一番伊予市にとって大事だと思われることをぱっと1つあるいは2つ出してもらおう。危機感の共有でもいい、ざくっとした話でもいいと思うのだけど、そういう項目ごとに方向性のある言葉で語ってもらおう。そういう投げかけ方はいかがだろうか。

(業者)

提案いただきありがとうございます。先ほど私どもの方から出している5つのキーワード、これを各部にわたる形にさせていただいており、おっしゃるとおり、具体性のあるところとないところがあると思う。この言葉自体本当にそれで良いのか、ご意見をいただきたいと思っている。例えばもう少し分野を絞った形でここまでした方が良いのでは？という話があれば、非常に助かる。

それからどこが重要か、希望の話はあるけれど、具体的に何が重要で伊予市として先ほどの方向性に合わせた形で、この言葉ならまちづくりの一つのキャッチフレーズになり得るところがもし出せるようであれば、2つ目として出していただいたらどうかと思う。

まず先ほど言った5つのキーワードの件で少し深めたほうがいいのか、くくりを変えたほうがいいんじゃないかというご意見をいただけると助かる。

(委員)

よろしいか。最初に縦軸、横軸の立体像の話をした。この5項目の中あるいは1つ減るかもしれないけれど、縦軸の項目を一つぽんと入れたらどうだろう。まちもあるし海も山もある。言葉は分からないけれど、そういう変化に富んだまち、周囲とか変化とか地域差に応じた政策を練るという方向を取るとか。そういう一つ縦軸を入れるとどうだろう。

(業者)

皆さん今のお話でいかがだろうか。一つテーマを増やしてもよろしいか。

(委員)

今の意見は分かる。先ほど言われていたユートピアの実現とか、一つ大きなものを決めて、そのために何をすれば良いのか。3つあったものを5つにするとか、まず一つの縦軸を作れということではないか。全ての目標を、次に今言う具体策をとということだろう。

(委員)

私が思うのは、伊予市が向かっていく一つの大きな方向性や目標みたいなもの。具体策や目標として仮にユートピアの実現でも良いと思う。そのために商業は、産業は？先ほど言われたように大きなくくりが5つあったり3つあったりでもいい。それでその下にまた具体策がこうなっているという。1つ言えば、一つ一つ下りていくラインでも良いのではないか。

(委員)

どうしても文章にすると箇条書きになるからそう簡単にはいかない。

(委員)

おっしゃるとおり。まちとむらがあって、そん中で農業があったり商業があったりで…。

(委員)

図面がレイヤーみたいに持って帰ればいいのだけど。

(委員)

今ここの5つのキーワードが全部横軸発想だから。情報発信がこの項目に入っているのかどうかというのはある。例えば情報発信ではなく、地域差ということで平面的にポンと入れておけば、何となく立体を見る窓口になるかなと。

(委員)

実はまだよく分からない。今提案されているようなまちからむらまでいろいろな地域がある。しかも基本目標がこれで言うと5つある。5つの下に結構いっぱいぶら下がっている。総合計画を作る際のページ構成として、例えば山の絵を描いて、一番下に海とかまちの絵を描いて、それを3Dで表現する。例えば山のこの地域の地域内経済循環はこうだと。山の市民の意識改革はこうだと構成して、立体的に分かるようにする。まちは一番下で、地域内の経済循環はこう、意識改革はこうだと3Dで表す。平面ではなく3Dで表したものをページのどこかに置いておいて、そのページで表現したいものだけ濃く書く。後は薄くぼやかす。そうすればどこにも作ってないような総合計画ができる。

(業者)

多分今おっしゃるのは、この分野にまたがる形でテーマを5つポッチで切っ

ていくところを、要は先ほどの山から海までの域性というところに地域別のテーマをそれぞれぶら下げていく意味合いに近いのかなと思って聞いていた。そういうやり方でしたいということだろうか。

(委員)

まちからむらまで構成して5つに分けて掛け算するとすごい数になるだろう。これは多分表現できないだろう。いっぱい重複してしまう。

(委員)

分かりやすく一度に表現しようとする、今言われたような図式化になると思う。それはそれで必要だと思うのだけど、象徴的に一項目縦ラインをポンと入れる。一項目でいいと思うのだけど、そうすることで、読んでいるときに自然とそっちに引きずり込まれると思う。

(事務局)

5つの区分と別に一つ。地域格差を入れてもいいということか。

(委員)

5つなのか、4つに絞るのか。縦系列も言葉は分からないけれど、地域の差なのかまちとむらの差なのか、人口の差なのか。ここの大項目の中に差がある、違いがあるということを見せるのは一つの手ではないかと思う。

(事務局)

その方が個別に全部差を出すよりはまとめやすいかなと思う。

(委員)

縦、横全部きれいにます目にすると、5項目と5項目で25個になる。決してそうじゃないと思う。そんなにたくさんないと思う。項目によると、もう全部一緒に入れる項目も出てくると思う。

(事務局)

先ほどおっしゃったのは、具体的な一つの課題を出す。例えば山、海、まちの事例を出した上で、そういう地域差があるというイメージを取り入れるということだろうか。

(委員)

1桁でも掛け算になる。

(事務局)

碁盤の目を埋めていくと大変なことになるので、一つのイメージで地域差があるという…

(委員)

いや、あるということは、対策もそれだけあるということだろう。それは目

安になる、イメージだけではなく結局対策になる。

(委員)

それを計画に載せると、最終的には実践しないといけない。最終的な計画には目標と着地点が出てくるわけだから、そうになってしまうとなかなか実際に計算はできない。表現すると柔らかな表現になってしまう。あくまでもこれは総合計画、重点計画なので、総合計画とは何ぞやと、そこをしっかりとしっかりしてきちんとスタートしないといけない。一つのを捉えて実践するなら計画できるけれど、総合計画に落とし込むのは難しい。それを思案しろ、知恵を出せということだろうけれど。

(会長)

ここで休憩を入れたいと思う。

[10分間休憩]

(会長)

引き続き再開する。

(業者)

よろしいか。先ほどの意見について内部でいろいろ話してみた。要は項目としての地域差がある話を、この5つ並んでいるものと同様な形で一つ項目を作ればよいということだと思う。多分作ったとしても、この項目と同じ行でつながる話ではなく、この分野について全部横断的に全部関わっていく地域性がある。この分野に出てくるやり方がそれぞれ違って来る、全部に対して関わっていく基本的な考え方だという表現をして、整理すればいいのかなと思った。

それぞれ5つのキーワードに基本目標、振り分けを入れているけれど、これはあくまでこういう考えで、例えば行政の縦割りの部分を入れるとこういう形の部分が出ることは出るという、これは仮なので、今日固めてしまうという話ではなく、例えば分野なしで、挙がっているキーワードによって施策のものは全部取ってしまうというやり方もあると思う。皆さんの意見でそれで行きましょうというのであれば、そういう関わり方をするのも一つの手だと思う。この地域性については、テーマとして出していくとどうかと思う。いかがだろうか。

(委員)

基本目標や各テーマを今のまとめ方ですると、今のままでない総合計画になると思う。そこで考えたときに、伊予市全体で伊予市を考えたら何をイメージするか、中山のクリかびわか、伊予市の花カツオか、双海のいりこかハモか、その辺もあるのではないかと思う。その辺の観光資源というか、人に来てもら

えるものをもう少し前を出して、伊予市のイメージをもっと強く表現する施策を言葉で表現できないかなとも思っている。伊予市をイメージするシンボルみたいなものにももう少し予算を組んで取り上げて、今後伊予市全体に盛り上げていくというものを入れられないかなと思うのだが、いかがだろうか。

(委員)

今の意見に補足、私の意見を述べたい。最近NHKを見ていると、ふるさと創生で農業と漁業を一体化して、長期・短期の滞在型観光を推し進めているのをよく見かける。以前京都に行ったとき、ハモ屋に連れて行ってもらった。その板前にどちらからと聞かれたので、伊予市と答えると、そのハモの3分の1くらい伊予市下灘のハモがっているらしい。そんなハモとかタコとかの漁業と佐礼谷辺りの農業を一体化した農漁村、それを政策に組んでもらえば長期的に住んでくれる方も増えると感じている。当然ハモ料理は難しく、私の実家も漁師で、祖父は結構上手に造ってくれていたのだが、私は手先が不器用なので骨がましくて嫌だった。そういう手間隙かけて農業と漁業の一体化を図りながら地域振興をするのがすごく役立つのではないかと思う。本当に一体化して政策に入れられれば、観光だけでなく運送などにも役に立ち、伊予市に定住してくれれば、私は勝ちだと思う。要するに勝負である。日本全国人口が減っている中、取るか取らないかの勝負がかかっている。そんな中伊予市に住んでもらう人をもっと増やしていかないと、先ほども出生率が1.3とか1.35とか松山市と伊予市が2番目に低いという話を聞いていた。東温市がどうも一番低かったように思う。そんな中で若者を呼ばないといけない。東北の人に勝たらいけないとか言うのだが、おじいちゃん、おばあちゃんが来て当然良ければ子どもも住んでくれる作用が生まれると感じている。これは伊予市の活性化、ひいては伊予市が滅亡するか存続するかの瀬戸際になるのが、この総合計画策定審議会でのこの計画をいかに推し進めるかということなので、事務方もよろしく願います。

(事務局)

今お二人がおっしゃったことは非常に大事なことである。実は今年度市長の肝いりの事業で、シティブランド確立事業を行っており、今配布しているボールペンや先日お送りした封筒にあるロゴマークのデザインがそれに当たる。伊予市と言うと、ハモがある、イリコがある、煮干からかつおまでであるというけれど、かつお節のまち伊予市だけでは伊予市全体を表現できない。だからそれも含め、食べ物もある、観光もある、子育ての施策をしているというのをまとめて、一つの伊予市の良いイメージとして外に出していく。それから合併前、

双海町は沈む夕日が立ち止まる町、中山町は鮮度100というキーワードで売ってきた。それぞれにアイデンティティーがあるので、それを伊予市の枠に納めようとしても反発がある。それをあえて10年になるので、新しい一つの旗じるしを持って、みんなで一体感を持ってPRしていこうということで、ロゴマークができた。双海の夕日をイメージしたオレンジ色、中山・双海・伊予にまたがる源氏平家の物語をゲンジボタル、ヘイケボタルという蛍に乗せてイメージを作り上げている。こういう新しい旗じるしを掲げて、伊予市シティブランドという一つのキーワードで表現していけば、観光も入るし食べ物も入るし、全ての伊予市のいいイメージ作りということで、一つのテーマにするのもいいかもしれないと感じた。

(委員)

今のすごくいいアイデアだったなと思った。市がこのロゴを作って新しい伊予市を盛り上げていこうとしている。それを一つの主軸にして、やはり譲れないのが、先ほど来のまちとむら、伊予市の中心街と双海・中山では一つの問題に対する答えや見方が全然違う。先ほど言われた主軸を設けて、まちからむらという縦軸、それに対してこうだよというのはできるといいなと思う。今もすごく分かりやすい図にはしてもらっているものの、これだと何ら変わりが無い。今までの伊予市のやり方にしか見えないし、新しいことをやってもいいのではないかなと。よその県にないものをこれから伊予市は作っていてもいいと思う。こうすればいい、ああすればいいというイメージが湧かないのだが、先ほどのデザインと絡めて、伊予市はミカン、ハモ、クリなど地場産業もありながら、まちからむらまである。それに対してこういうものがあるよということ全体的に表現できれば、新しい何かができるのではないかなと思う。

(委員)

いろいろ考えている。このブランド、審議会とか、庁舎や文化ホール・図書館などタウンミーティングもやっている。ここのメンバーの方も参加しており、そういう横の情報、庁舎のときなど縦割り行政ではなく、市民の方が新しい庁舎の窓口に来たら、その人が動かなくても行政の人が必要なものを全部そろえればどうかという話になった。

今回思うのは、まちとかむらに特化すべきだと思う。みんなが同じようにするのはおかしいし、できるわけがない。地の利も違うし特産も、ある意味気候も違う。だから今度の総合計画にも例えば双海は何が一番熱望しているとか、中山地域ではこれは我慢するけれど、これだけはやってほしいというものがあると思う。そこに反映して、必要なものがきちんと残せる、できることにつな

がる総合計画になると良いと思う。

(業者)

今の一連の流れの中で言うと、皆さんが大事だということは確かに出していないといけない。その出し方をどうするか。今までなら特化して重点プロジェクトにするとか、重点施策にするという出し方だけで済んだところもあるのだが、例えば今出している5つのテーマに対して、皆さんから出してもらった意見がある。それをこのままプロジェクトにして、横断的に取り組む、こういう角度で入ってやっていきますよという表現もできないことはないと思う。行政側に相談する必要はあると思うけれど、そういう具体的に特化するものはこれだということを先に出して、ほかにもやらないといけないことは粛々とやりましますよというのを後ろにつけるやり方。内子町がそういう分け方をしている。そういう骨の部分でやるのはこれだという出し方もできると思う。そういうやり方でいきましょうというのであれば、それも可能だと思う。皆さんの本日の意見ではそれが強い気がしたので、そのまとめ方を一回作ってみて、行政でできるかどうか精査して出すのも一つの方法かと思う。私の勝手な意見かもしれないが、そういう施策の出し方もある。

(委員)

私はまちもあればむらもあるという表現にどうリアクションしていいかわからなくて考えていた。まちやむらは、松前町は違うけれど、どこの市にもある程度あると思う。それをもう少し考えていくと、住民のコミュニティーがいくつあるのかということになる。住民の意思決定の単位はどうなのか。佐礼谷という単位を1として考えていいのか。下灘に行くと、一体単位がいくつなのか分からない。串だったり何だだたりと分からない。本庁地区だと郡中・北山・南山・南伊予でいいのか、あるいは大字の方がいいのか。分け方はいろいろあるので、カウントの仕方によって、伊予市には10地区あるとか20地区あるとかいう顔があって、それに付属して住民がそれぞれの提携したことをするという考え方もあると思う。

ライン川の上流にリヒテンシュタイン公国というのがある。面積が160平方キロメートルと伊予市より一回り小さく、人口は35,100人。ここに11の自治体があって、首都はファドゥーツというまちで人口5,300人。人口規模が第2番目で首都のようである。こういう国があるということは、伊予市もそういう成り立ちもあり得るわけである。可能性としてそういう自治体があるんだと。それを盛り込めという話ではないのだが、イメージする。私は基本この枠組みの中で議論したのでいいと思っている。先ほどの提案を聞きながら、意思決定は単位

ごとに色があるということで、どこかに盛り込む方法はあるかと思う。前の総合計画を見ても一つの単位しかない。だからそれをどう生かしていくのか。例えば人口減少を食い止めるために集権型がいいのか分権型がいいのかという議論はこれから起こってくるようである。拠点都市を含めて、そこをダムとして流出を止めれば人口減少は治まるという議論である。増田寛也さんは元岩手県知事なので、東北は盛岡を拠点にするのかと思ったら、宮城県の仙台を出していた。そうすると四国はどうなるのか、高松か松山かくらいになってしまう。今後松山も10年20年後の人口を見ると1割くらい減る。そうすると50万都市松山というプライドをかけて大合併が起こる可能性すらある。その生き方がいいのか、小さな単位でいきいきと生きられる方がいいのか、今後出てくると思うので、その辺を意識した総合計画の作り方もあるのかなと思う。ただベースはこれにしても、下灘になると私らどうなっているのか分からない。中山も永木に行ってくれと言われても分からない。そういう意味ではそこも全部伊予市なので、いろいろな伊予市があるということを前面に出して計画を作れば面白いと思った。

(業者)

それも含めて、地域性、地域差をどう出すかというところが論点になっていくと思う。

(委員)

今言われた話は最初の1回か2回で出ていた。一番大事なことで、人口問題で3万人と。それで周辺の総合計画を立てるとなると、一つは松山圏域を含めた伊予市・旧中山・双海を入れた伊予市として経済をいろいろ考えるべきか、松前町もひっくるめた前提で考えるべきか。我々がその絵を描こうと思ったら、最終的に整理整頓して、きちっと委員から出てきたいろんな問題を掌握した中で優先順位を付ける。中山町なら何、伊予市なら何、双海なら・・・とトータルで順位を付けて絵を描くことになるのだが、最終的な実践方法は住民みんなが頑張っって実践しないといけない。そのベースは非常に大事である。そこでは前提条件という、ある程度考えておかないといけないものがいくつか出てくると思う。例えば産業振興にしても農業を考える場合には、ある程度前提条件をきちっとする。定住を何人にする、今は農業人口の現状がこれだけで、後継者はこれだけいるから、将来は何人だと。それらを考えた上で計画を組んでいかないといけない。まちも山も海も全てかかわってくるわけだから、基本的な共通事項としての認識は大事なことで、私も松山経済圏、松前と将来合併もあり得るだろうと思う。松山市も当然50万人を切ってくるから当然松前を取り込ん

でくるだろうと。松前は向こう向いていると。いろんなことを想定すると、旧中山・双海・伊予市で本来考えないといけないベース、このテーマで重点事項、基本事項に優先順位付けることがだいじなので、そういう点では、人口は当然3万人を見ていくということで前回やったけれど、それを見越して定住化促進を絶対にしていかないといけない。そういう点を一度事務局で整理してくれると思うけれど、委員が判断しやすい材料を整理整頓して計画に載せていただければ、当然行政サイドも各課をまたいだ現状背景を考えて将来像を描いていると思うので、最終的にはそこになってくると思う。我々のテーブルの中では、全て前を向いていくわけではない。実践していく行政サイドの職員もいろんな意見を用意周到にこの計画に収めていかないといけない。最終的に予算が全部に行かないかもしれないが、そういう意味では大事なことだと思う。

(事務局)

よろしいか。今の議論から外れるかもしれないのだが、先ほど委員から話のあった松山との関係ということで、以前中核市の松山市を中心とした近隣の市町で定住自立圏という圏域を起こさないかという話はあった。全ての地域が賛同して、同じような施策を松山市中心に行うものであった。将来的な合併を見据えたと思われるのか、なかなか賛同いただけず結局だめになった。今度は国も考え方を改めて、新たな連携中枢都市構想を導入した。これは総務省、国交省、経産省など、いろいろあるものを一つに取りまとめたものである。松山が中核で違いないのだが、例えば観光なら松山と砥部と伊予が連携する、交通だったら東温と松山と久万高原がする、そういう施策ごとに賛同できる自治体が手を挙げるができるという考えが導入され、来年松山が手を挙げると内々で話が伝わっており、今後それぞれの自治体でどういうことで松山と連携するかを詰めていく段階に入っている。これは来年10月までである程度進行があると思うので、その都度委員の皆さまに進捗をお知らせする。人口減少についても伊予市だけでなく、松山や松前、砥部に担っていただくことも若干あるかと思う。そういう松山都市圏の中での伊予市のあり方も総合計画に盛り込まれていくべきと思うので、必要な情報についてはお示しする。皆さんには伊予市という立場でどういう施策を講じていけばいいか意見をいただければと思う。

(業者)

今員から意見のあった、単位をどう考えるかという話については、ここでは話をつけることができない。事務局側で行政が動ける範囲とか単位、その中でどういうものを出せるか、ちょっと議論させていただき、皆さんの期待に沿えるものになるかどうか分からないこともあるのだが、一度検討させていただき

たい。

本日こちらで5つのテーマを挙げたのだが、皆さんの意見の中で言うと、それ以外に「地域」というところが、全体を通した形での考え方になろうと思う。それをどう表現するか、表現の仕方はあると思うのだが、これらについても整理してみたいと思う。それ以外の5つの内容について、表現が本当にいいかどうか、もし違うようであれば、この場で意見を出してほしい。特になければ、それを方向性の考え方として出していきたいと思う。それらを踏まえた形で、特に伊予市として大事なところ、将来像というかキャッチフレーズ、伊予市の将来のまちとして、皆さんが同じ方向性として納得いくのではないかという言葉があれば、少しご意見をいただきたい。それを踏まえて次回、テーマと施策がどうリンクするかを事務局の中で揉ませていただく。それと併せて全体の方向を整理していただければと思うのだが、いかがだろうか。

(委員)

やはり人口減少問題がかなり大きな問題なので、そのキーワードを求めたいと思う。国は50年後に1億人をキープすると言っている。1億2,800万人の国が1億人と言い出したということは、人口を5分の4で止めるという発想である。そのためには何が必要か戦略的に考えるという話になったということである。では、人口38,000人の伊予市がどこで食い止められるか、その明確な目標、指標を出した方がいい。以前はどこも人口を等しくするもしくは増加するくらいの行政判断をしていたと思う。伊予市は前回の目標4万人。はっきり言って、3万人で食い止める。それにはどうしたらいいかを考え、具体的施策の中でどう位置付けていくのか。伊予市の出生数は毎年260人前後であり、全員が100まで生きたとして26,000人である。もちろん閉鎖空間の中でそのまま成長するわけではなく、社会的増加もいろいろあるのだが、単純計算で考えても厳しい状況にある。ただ3万人とするなら、それをどう具現化するかというのが総合計画の柱であり、中身であってほしい問題だと思う。3万人で食い止める、輝く集落 魅力あるまち…そんな感じで受ければよいと思う。

(委員)

キーワードではないのだが、特産品をイラストにしたとすると何が浮かぶか。クリやビワ、キウイは日本一である。甘平や紅まどんなは愛媛県だけの生産である。そういうことはご存じないだろう。イラストを描こうと思っても描けないだろう。その辺を研究してもらいたい。花かつおとかハモとか、いりことか、それなら言葉じゃなく図で表せる。そういうものを入れるのも一つの案ではないだろうか。

(業者)

ありがとうございます。表現は検討してみたいと思う。

(委員)

今言われたことの延長になる。やはり定住化、若い人を取り込んで3万人なら3万人定住化させるとなると、基本的には儲からないといけない。私は農業が専門分野なのだが、農業も儲からないから後継者が育たない。やはり儲かる産業の創出、組立、これをもう一度ゼロから考えないといけない。人を定住化させようと思えば経済効果も発生するのだから、ある程度の収入がないとだめである。近隣でも若者を呼ぼうと、土地が付きます、家が付きます、就労支援で月14万円くらいは1年間支援します、そう言っても期限が切れるとなかなか定住できない。国・県はそういう補助金や支援制度で若者を呼び込むのだが、最終的に儲からないといけない。今も若いものがたくさん入って、それなりに一生懸命やっているけれど、なかなか儲かるものにならないので苦労されている。今は花形産業とかいろいろあるけれど、やはり伊予市では儲かる産業を、農業なら儲かる農業をするためにどうするか。

もう一つ大事なものは、私今まで40年間現場で仕事をさせてもらって思うことは、出口戦略、売ることである。やはり生産ができ、産業育成しても、出口戦略がきちっとしていないと収入が伴わない。国も一つ覚えで6次産業と言って1次産業をされるのだが、これはどこもができることではない。そのイメージを作るには、それなりの期間と時間、人材と能力がいる。やはり出口戦略が先にあって、売る方法がある。ちょっと遡って作ることで産業が成り立つ。そこをうまく総合計画に方向として載せられないかなと思う。単品では入ることになるのだが、最終的には定住化促進につながっていく。やはり一番大事なことは儲けることである。産業として成り立つ仕掛け。今まで農水省が失敗したのは、儲けることより育成、後継者育成を優先したこと。ものづくりは進んだけれど、特に農林業は出口がない。そこをもう一度伊予市の場合は出口を考えていかないといけない。そうすると双海の漁業もいろんな絵が描ける。それに付帯した相乗効果として、観光をプラスする。出口戦略は県も一生懸命考えているけれど、伊予市もやれるような出口を持ってもらいたい。

(委員)

難しいことは分からないのだが、将来像としてキーワードにない言葉、皆さんが話された言葉を拾い集めて、思い付いた言葉である。まず農業が出てきた。農業、漁業、林業。それから子育てから子ども。それを育てるという言葉…農業を育てる、漁業を育てる、林業を育てる、子供を育てる…育てるという

言葉が欲しいと思う。それからみんなの知恵、農業も林業も漁業ももちろん子育ても、知恵はすごく大事なことだと思う。あとは売るという言葉もたくさん出てきたし、発信するという言葉も素敵だと思う。育てて発信し、みんなが幸せに暮らせたらいいなという言葉思い付いた。イメージで言葉がつながると素敵なのができるのではないかと感じた。

(業者)

具体的な言葉、ありがとうございます。その辺をキーワードに少し取り入れてみたい。

(委員)

農業にしても漁業にしても最後はやはり人間である。一番間違えるといけないのは社長である。お百姓も経営者である。それが今まで農協とか漁協とか失敗している。何故かという、お互いに依存したからである。農業も本来間違わなければ、もっと儲かったと思う。いつの間にかそういう依存体質の体系ができてしまった。我々が機械を買うなら銀行から安い金利で借りて買う、仕入れもそうであるが、お百姓は農協からミカンができたとき、米が収穫できたときでいいよと、言い値で買って来た。最後は全部搾取されて来た。それが今の農業の衰退になっている。何でもそうだが、まず人の意識改革。行政も市民も、お百姓も漁業、林業の方もいっぺん意識改革をしないといけない。我々が社長なんだと。みんな個人経営者である。私は若いときに住民の皆さんにそういう話をした。成功しない、何がいけないのかと。農業なら計画栽培をやればいい。何組か組まないといけない。ただ組んでやっていると利益が出ると割りともめたり、できていたグループがなくなったりする。販売先は本当そのとおりである、出口である。私は何のために議員がいるのかと言った。東京なり何なり市場へ行って売り口探してもらって、運送も農協ではなく保冷車、冷凍車を使うとか。それを自分がやると面倒だから農協に任せる。任せれば楽である。販売も何もかもしてくれる。でも実際それでは儲からない。だから最初にあるのは人間である。それを盛り込んでいただきたいと思う。

(業者)

ありがとうございます。キーワードが大分出て、考えないといけないところがある。今のお話、都市の将来像の話もあると思う。今は方向性と書いているけれど、理念をまとめる際にも、皆さんの意見を出していただきたいと思う。もしかすると将来像から漏れたかもしれないけれど、考え方的には意見に入っているようにできればと思うので、その辺は検討していければと思う。

まだまだ言い足りないところがあるかもしれないが、こういう形が良いので

はないかと意見を出していただいていると思う。時間も長くなっているので、今日の議論はこれで閉じさせていただければと思うがよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(2) その他

(会長)

議事のその他に入る。

(委員)

よろしいか。今A4の紙を2枚配っていただいている。2月23日、再来週の月曜日にウエルピア伊予、銀河の間で午後6時半から少子化人口減少問題を考える市民集会を開催することとなった。市長にも一市民として出席くださいというお願いを聞き入れていただいた。市議会議員にも案内し、一部の方からは返事をいただいている。県議選の伊予市選挙区から立候補される予定の3人にも出ていただく約束を得ている。椅子だけだと390人入るということなので、是非いろんな方をお誘いいただくとありがたい。議論の時間はこの会よりみじかくなるので、どうなるかは分からないが、より多くの皆さんが問題提起する場としたい。できれば愛媛新聞で本庁地区、中山地区、双海地区にも織り込みチラシを入れたいと思っている。

もう1枚は、伊予市制10周年記念、市主催事業のアイデア募集をネットで見ただので、提案している。朝まで生討論というタイトルにしており、ウエルピア伊予にて泊まりがけで議論をしたい。できればラジオかCATVがスポンサーになっていただき、それを全国発信するというアーカイブも作成する。そういう提案をしている。

(会長)

市民集会及びアイデア応募の2つ提案があった。何か質問はないか。

(委員)

今未来づくり戦略室という部署ができたので、今も言っていた農業、漁業の製品、製品化していくための企業マッチングなどやっていかないといけないのではないか。そういう前向きなことをしてもらいたいと思う。

(委員)

先ほどの総合計画の構成イメージに関することである。こういう構成パターンを一種類だけ提示してこれで行きます、意見どうでしょうかと問いかけるのではなく、例えばA案、B案、C案など何パターンか構成しておいて、それを議論に持ち込むというやり方をやってほしい。これだけだと視野が狭い気がする。

るので、何パターンか提示してもらいたい。

あと、基本目標の下に委員から提案のあったまちからむらへというのをさらに細分化したものをぶら下げるといった話があったけれど、それでは皆さん納得しないのではないかと思う。もう少し、ここまでよく考えたなあという構成をお願いしたい。

(業者)

頑張らせてもらう。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(3) 次回の審議会日程について

(事務局)

審議会日程に入る前に先ほど委員からいただいたビジネスマッチングである。確かに東温市、松山市等も行政が主になって行うようである。伊予市も今回お配りしたロゴマークを中心に、これから商品開発、最終的には販路拡大につなげていきたいと思う。国からも地方創生の関係で交付金が出ることとなった。その交付金を使ってビジネスマッチングまでいけるかどうか。販路拡大の事業を2本予定しているので、最終的にはこのビジネスと結び付けて、大手のスーパーや、東京、大阪あたりで販売できる仕組みができればいいなと思う。先週も実は大阪で物産フェアがあり、伊予市ブースを出した。今回作った新しいロゴマークや、これをイメージしたのぼりとかブルゾン、いろんな新しいものを使って、非常に好評であった。伊予市は魚やちりめんも当然あるし、クリや甘平も出した。非常に好評だったので、できれば来年も県内外問わず継続したいと思う。この審議会でも良い提案があればお知らせいただければと思う。

審議会の議事録については、修正点等あればご連絡をいただきたい。

次回の審議会の日程は3月第2金曜日(13日)1時半から、さざなみ館で開催することとする。

(委員)

よろしいか。私が言う商品というのは、伊予市の中で新しい加工品、新商品を考えていくということを行っている。今は伊予市で作ったクリやビワを買ったところが二次製品になって出している。伊予市で加工できれば、生産者も単価も良くなる。大阪でやるビジネス、直販でも構わないのだが、それに加えて新しい商品の開発をしていく。そこに市が応援してあげないと難しいと思う。

(委員)

明日町家で新しいスイーツの試食販売と聞いている。

(委員)

スイーツとかいろんな加工品を作る。今までならジャムとかになるのだろうが、もう一つ抜けたようなものが多分できると思う。その販売を考えてほしい。当然それ以前の加工業者も儲かるようにしてほしい。

(会長)

次回は3月13日金曜日ということでよろしくお願ひしたい。

(委員)

よろしいか。今回は広報区長会と日程が同じであった。今後日程を決めるのであれば、事前に各課、議会等に確認した上で、調整を行ってほしい。3月は議会があるから、課長もひょっとしたら来られないのではないか。

(事務局)

3月の市議会の日程が大丈夫かという話である。26日に開会する予定であるが、その後の日程はまだ確認できていない。委員会と重複してしまうと、我々会議に出られないということもあるので、確認した上でまたお知らせしたい。

(会長)

議運（議会運営協議会）では決まってないのか。

(事務局)

議運が来週末の予定である。

(会長)

では、今のところは3月13日金曜日とし、変更があれば連絡してもらおうこととする。以上で閉会する。ありがとうございました。